

# わいぐ WA-I GU

「WA-I GU」は、青森県南部地方の方言である南部弁の「私、行く（わぁ行く）」という方言が元になっています。地域の課題に対して、市民が自主的に取り組む姿を、この一言に表しました。



## ～南部昔コ キャラバン隊～

2017年10月、高齢者に南部昔コを読み聞かせて楽しんでもらおう、元気になってもらおうと、八戸市公民館主催の『南部昔コ語り部養成講座』の受講生で立ち上げました。現在、隊員は20人、30代から80代までの女性だけの団体です。

聞いてくださる方々に「聞いて」「見て」「参加して」楽しんでもらえるように、意見交換をしたりアイデアを出し合ったりしながらがんばっています。

詳細は7ページの登録団体紹介のコーナーに掲載していますのでご覧ください。

### も く じ

- ★特集「おいらせ町の市民活動」・団体運営相談Q&A ..... 2・3P
- ★市民活動に生きる～我々の信条と目標..... 4・5P
- ★わいぐコラム・出前わいぐ..... 6P
- ★登録団体紹介・わいぐライブラリ..... 7P
- ★WA～IGU情報..... 8P

# おいらせ町の市民活動

～私たちはこのような活動をしています～

連携中枢都市圏構想は、中核性を備える圏域の中心都市が近隣の市町村と連携し、「経済成長のけん引」「高次都市機能の集積・強化」「生活関連機能サービスの向上」を目指すもので、平成 29 年 3 月 22 日に、八戸市・三戸町・五戸町・田子町・南部町・階上町・新郷村・おいらせ町の 8 市町村により「八戸圏域連携中枢都市圏」が形成されました。

連携中枢都市圏の構成前、わいぐでは市民活動に役立つ情報の提供や団体の立ち上げ・運営相談、交流会の開催などを通じて、近隣町村の市民活動の促進に取り組んできましたが、これを機に、各町村内において公益的な活動をしている市民活動団体の登録も可能となり、圏域内の市民活動の一層の促進と団体間のネットワークの構築に取り組んでいます。

## 特定非営利活動法人

## たすけあい・さわやか青森

人はみんな違っていい。その人らしく尊重されて生きていけることが、地球上のどこでも幸せの原点。そんな思いで、「特定非営利活動法人 たすけあい・さわやか青森」は活動を始めました。

日本語教室は 1996 年から開始。「こんばんは」、「先生、元気？」と元気な声をはじけます。おいらせ町だけでなく、三沢市、南部町などフィリピンや中国出身の女性たちが日本語を勉強するために集います。底抜けに明るい彼女たちからエネルギーをもらって、日本語を共に勉強しています。参加者の中には、介護福祉士国家試験合格者もいます。

2017 年度からは、町の助成金事業として、英語教室を開講。講師に海外生活の長い川越将弘さんをお迎えして、中学生や高校生、大人が一緒になって英会話力をつける為、英語だけの自由な会話を楽しんでいます。2020 年から小学生も英語を学び、プログラミング教室も始める予定です。

また、誰でも参加できるパソコン教室を毎週金曜日の午後、開催しています。もう 12 年間続いています。



英検二級合格者の生徒さんたちと川越先生

年齢や性別、国籍を問わず一緒にお茶を飲んだり、食事をしたり、映画鑑賞をしたりして、おしゃべりに花を咲かせてふれあいの居場所「くずさんの家」を運営しています。ここでは小学生を対象にしたプログラミング教室で、子どもたちが音楽やゲームを楽しんでいます。

これからますます高齢社会が進みます。地域で子供も大人も、高齢者も定住外国人もお互いに助け合って、「すみません」ではなく「ありがとう」の声が飛び交う日常にするために私たちは活動を続けたいと思っています。

## 向山駅愛好会

向山駅愛好会は、駅に賑わいを創ることと青い森鉄道沿線に活動の輪を広げることを目的として、向山駅を愛する地元有志と全国の鉄道ファンが集まって、2013年2月に組織されました。駅舎に長年眠っていた旧国鉄時代の貴重な鉄道資料などのお宝を展示した手作り博物館「向山駅ミュージアム」を拠点に、駅舎周辺の環境美化活動や地元産品の定期物販、鉄道PRイベントの開催などを行っています。

ミュージアム内には、県内でも珍しい常設の鉄道ジオラマ模型が展示されており、休日にもなるとジオラマ見たさに小さなお子さん連れのご家族でとても賑わっています。また、公共交通の玄関口として来訪客へのレンタサイクルサービスやまち歩きガイドなど、地域の観光案内の役割も担っています。毎年6月には鉄道ファンを集めたファンイベント「ごごさあつまれー」や10月には駅弁販売などを含めた鉄道PRイベント「おらんの駅祭り」を開催し、全国から会員や鉄道ファンが集い、鉄道談義に花を咲かせながら交流しています。ここ最近では、これまでの活動が認められ、念願としていた公衆トイレの水洗化が実現し、補助金を活用したミュージアム内の本棚など



イベント「おらんの駅祭り in イオンモール下田」

の展示用備品や電子掲示板などの案内表示備品を購入するなど行政による支援をいただくまでにしました。

向山駅が「木ノ下信号場」として開設されてからちょうど100年にあたる2022年は、向山駅愛好会が設立してから10年目を迎える節目の年にあたります。記念すべき「向山駅100周年」と「愛好会10周年」に向けて、今後とも活動方針としている「駅を活かす」、「活動をつなげる」、「組織力を高める」をモットーに地域を元気にしていく活動を続けていきます。

《向山駅ミュージアム》

開館日：土日祝／開館時間：10:00～16:00

《向山駅愛好会ブログ》

<http://blog.livedoor.jp/mukaiyamaekiaikoukai>

## 団体運営相談 Q & A

わいぐが受けた相談の中からいくつかをご紹介します。

### 【団体運営相談】

- Q. 当方は株式会社ですが、会社内で非営利活動をクラウドファンディングにて行っています。わいぐに登録することは可能でしょうか。
- A. 株式会社は営利目的とみなされる為、会社自体では登録できません。ただし企業のCSRの一環として行う非営利の公益的な活動においては、その事業専門の団体を結成すれば登録が可能になります。会社内で、その事業を取りまとめる要員を決めて、団体などを設立してはいかがでしょうか。
- Q. 保育士の資格を持つ仲間同士で、子どもたちを預かり少額の料金を取るシステムの、有償ボランティアによる子育て支援活動を考えています。それに当たって保険をかけようと思いますが、料金が発生する活動ではボランティア保険に加入できないようです。ファミリーサポートセンターでは保険をかけているようですが、それはどういうものですか。また、同じような活動をしている団体は保険に関してどのようにしているのでしょうか。
- A. ファミリーサポートセンターは国で行っている事業で、独自のシステムによって構築されている団体で、保険も専用の保険となります。ボランティア保険の対象にならないのであれば、一般の保険を利用するしかありません。同様の活動を行っている他の団体も、一般の保険を利用しているとの事です。

# 市民活動に生きる

～我々の信条と目標～

第19回 向谷地 正彦 氏

不言実行  
向谷地正彦

## 【連絡先】

八戸市ボランティア連絡協議会  
TEL 0178-47-1651(内線521)

## 活動のきっかけ

ボランティアの活動を始めたのは、BBS 活動（非行や犯罪に巻き込まれないよう青少年の更生の手助けをする活動）をしていた先輩を手伝ったことがきっかけです。八戸市ではなく勤務先の横浜で、今のようなボランティアというより、サークル活動として携わって見たことがきっかけでした。

また、40 年以上前、社会参加活動として吹奏楽をやっていたのですが、その楽団の研修や交流活動に参加して、「こんな仲間づくりのような活動はいいな」と感じていました。BBS では八戸地区の会長をやっておりましたが、県の会長職、東北地区の会長職を経て、全国組織として 40 年以上の関わりを持ってきました。ボランティアに対する意識の地域差もその頃よく感じたものです。現在は東北地区の顧問として関わっています。BBS は八戸市のボランティア団体として登録、活動をしておりました。

ボランティア連絡協議会は 30 周年になりますが、私は 2 代目の会長で、今年で 26 年目になりました。30 年前、八戸市内のデパートで、八戸市社会福祉協議会が主催のボランティア活

動紹介展という展示会をしており、BBS も活動の紹介をするために参加しておりました。当時、15 団体ほどが参加していたのですが、職員の方に、「せっかくこれほどの団体が集まったのだから、ボランティア活動の組織を作ったら？」と声をかけられたことが、この会ができたきっかけでした。



2015年10月 ボランティア・市民活動フェスティバル

## 苦勞した事

書類を作る作業で困ったことはありますが、それよりも人を集めること、特に若い人に興味関心を持って参加してもらうことに苦勞しています。

加盟しているボランティア団体は高齢化を迎え、若い人が入ってこないことで後継者不足に悩まされています。震災ボランティアやさまざまなまちづくりに関わる人は増えているようですが、運営がままならず解散している団体もあります。ボランティア活動は、柱としての活動の中心が何なのか分かりづらいので、活動が限定的に感じることもあり、また、若い方は役員になりたがらない人が多いことも参加者が増えない理由です。若い方の力を確保したいと思っていますが学生は学校行事等で活動が難しいことも実情です。

以前「介護」について関心が高かったことから、男性を対象とした介護に関する企画「介護教室」や「料理教室」を行っていましたが、現在は参加者が少ないことや費用がかかることから出来ていません。

## 達成感よりも大切な想い

毎回毎回、一生懸命やることを「やって当然」のことだと思い、達成感を求めています。継続していくことはみなさん大変だと思いますが、やることに一貫性を持ってスタンスを変えずに活動しているので、達成感というより、やって良かったと思うことは多くあります。毎年開催しているふれあい夏祭りでは、地域の方やハンディキャップのある方との交流を目的として開催しています。みんなの意見を聞いて工夫し、協力して行っています。



2011年9月 ボランティア広域ネットワークフォーラム

## 地域や行政との関わり

当会は団体の集まりなので何かを一緒にやる機会は少ないですが、他団体との連携を密にしていこうということが目的でしたので、地域に括らずに連携はしています。現団体のほかにも所属している団体、代表を務めている団体がありますが、皆さんが手伝ってくれます。

行政との関わりについては、補助金をもらったことがあります。担当窓口が変わることで理解の仕方や方針に変化があることがあります。行政にもボランティアについての知識を深めてほしいと思っています。

## ●わいぐとの関わりとこれからの活動について

活動の広報誌を作成することがあり、その印刷でわいぐを活用していこうと考えています。当会に参加している団体は同時にわいぐに登録している団体も多いですが、高齢化していることもあり、交流会などの集まりの参加者も減ってきたので、他の団体の皆さんとの交流を図るため、活用したいと考えています。

若い人にも活動を知ってほしい、参加してほしいと思い、活動紹介展を開催していますが、周知に力を入れることがこれからの課題です。

## ● 必携の品 ●

ベルトに装着できるスマホケースです。活動をするときに心掛けていることは、両手を空けておくことです。片手ではできることは少ないので、両手を空けて、作業などにあたります。学生ボランティアへも、スマホなどの貴重品は肌身離さずにと呼びかけています。盗難・紛失が発生すると、せっかくボランティアで活動しても迷惑をかける結果になってしまうので、事前に対策することを心掛けています。



## 出番です! シニア世代 7

ペンネーム：北のおじさん



平成時代も今年 30 年で一区切り。  
来年 5 月からは新元号に。何に決まるか興味深い。

さて、私事ですが、私、観光功労者で 2 度目の表彰を受けました。これは勿論、八戸では初めてのことで。県内ガイドの育成と活動に、取り組んできたことが評価されたもの。25 年前は 30 人足らずのガイド数で団体も数団体ほど、しかし今は 1,000 名近くのガイド数で団体は 30 団体は存在しています。

この面で努力してきた私にとっては、活動が認められ嬉しいことです。

特に八戸は観光地としては後発です。大きく変化してきたのは、勿論、東北新幹線が八戸に開通してからでした。高速列車が来てビジネス、観光客が増えて泊り、飲食し、みや

げ品も購入する。そういうことで、都市経済がうるおい、市民の生活環境も徐々に、充実します。こう考えるとかつての八戸は、水産都市、産業都市の性格が強かったので、観光に依存しなくても、経済が回りました。

しかし今は、各面での都市間競争が激しくなって、漫然としていけば、都市の衰退に繋がります。現に八戸市も人口減少化にあり、多くの課題も抱えています。

それだけに、福祉面を向上させる意味でも各種大会を積極的に招致し、多くの人を迎え入れ都市経済を活性化させることが大切です。コンベンション招致は、市民一人一人が真剣に考える大切な課題です。

## 出前わいぐ

「出前わいぐ」は八戸圏域（八戸市、三戸町、五戸町、田子町、南部町、階上町、新郷村及びおいらせ町の区域）内の市民活動団体の自立的・継続的な活動を支援することを目的として開催しています。八戸圏域内で開催されるイベント等に出展し、パネル展示・リーフレット配布などでセンターの周知を行う他、登録団体の紹介、市民活動に関わる情報提供等を行っています。

八戸市近隣へ  
おじゃまします!

平成 30 年 10 月 27 日 (土)  
田子町の「ひとくるめや文化祭」で開催しました!



平成 30 年 11 月 3 日 (土・祝)  
五戸町の「産業と文化まつり」で開催しました!



平成 30 年 11 月 21 日 (水)  
田子町の「田子町社会福祉大会」で開催しました!



## 新しく仲間入り! 登録団体紹介

### 南部昔コ キャラバン隊

私たちはこの一年間で、高齢者施設、公民館、高齢者支援センターなどから依頼を受け、約25カ所、延べ80回余り訪問しました。

2018年8月に大久保のコミュニティセンターで行ったプログラムは以下のとおりです。

1. 昔コ「お坊さんとこぼっこ」
2. 昔コ「座敷童子」
3. 手遊び歌「むすんでひらいて」(八戸版)
4. 昔コ「フウフウ パタパタ」
5. 紙芝居「金のおの 銀のおの」
6. 昔コ「屁っこたれるキジの卵」
7. 手遊び歌「一かけ二かけ」
8. 昔コ「鬼とかけろっこ虫」
9. 昔コ「メドツの宝物」

#### 【聞いて楽しんでもらうために】

話す昔コは、気に入ったものや聞いてくださる方に喜んでいただけたようなものを選び、難しい方言は、分かりやすく言い直したり補足したりしています。マイク等の設備がないところでは、ハンズフリーマイクを活用しています。また、技術の向上を図るために、2019年1月には、柗谷伸夫先生からご指導を受ける予定です。

#### 【見て楽しんでもらうために】

昔コの“読み聞かせ”から、聞いている方々の反応を見ながら表情豊かに身振りもつけながら話すように、少しずつ“語れる”話を増やしています。また、自作の紙芝居を作ったり既成



の紙芝居の文章を南部弁に直したり、ペープサート(紙人形劇)や挿し絵を利用したりするなど、見て内容が分かりやすいようにしています。昔コに合う小道具を準備することもあります。

#### 【参加して楽しんでもらうために】

子どもの頃に歌ったわらべ唄や季節に合った唱歌などの歌詞を提示し、一緒に歌ったり手遊びをしたりしています。踊りも始めました。高齢者を初めとする多くの方々に、昔コの良さや大切さも伝えていきたいと考えています。活動の様子は、ブログにもアップしています。

<http://mukashiko.jugem.jp/>

#### 【問合わせ先】

TEL 080-1815-9412(代表 竹ノ子)

### ～わいぐの魅力～

月1回の定例会は、「情報交流サロン」を利用。とても居心地が良く、お茶を飲みながら熱のこもったミーティングをしています。

## わいぐライブラリー

### ボランティアを生みだすもの ～利他の計量社会学



出版元) 有斐閣  
著) 三谷はるよ

誰がなぜボランティアになるのか?ますます重要性が高まる日本のボランティア。それを生みだしている筋道を、大規模調査データを分析し、明快に論じる。

わいぐでは、市民活動に役立つ書籍を設置しております。スタッフお勧めをご紹介します。

### 我がまちの人情喜劇「銀の馬車道」 ～演劇が生んだ地域のつながり



出版元) 神戸新聞総合出版センター  
著) NPO 法人姫路コンベンションサポート

人がつくる、まちが変わる。日本遺産に登録された「銀の馬車道」をテーマに住民が作った演劇は20回近くも公演を重ねている。地域が輝くためのヒントにもなる一冊。



# Wa~IGU 情報!

## 【助成金情報】

### 【一般財団法人 冠婚葬祭文化振興財団社会貢献基金助成】

#### ●対象団体

以下の条件を満たす、非営利組織及び又は大学、研究機関（個人も可）で、今回募集する助成対象事業の趣旨に合致する事業を行おうとしている団体等。

- (1)定款に準ずる規約を有し、自ら経理し、監査することができる会計機能を有すること。
- (2)団体等の主たる事務所（又は準ずる所）を日本国内に有すること。
- (3)団体等の意志を決定し、今回申請する活動を執行する体制が確立していること。
- (4)団体の活動実績（今回申請する活動又は類似した活動）を3年以上有し、今回申請する活動のニーズが高く今後も継続性が期待できること。
- (5)申請する事業の実施のための自己資金を保有すること（他の民間団体等からの助成を除く）。

#### ●対象事業

平成31年度事業（平成31年助成金の交付決定日：5月中下旬頃～平成32年3月の間に開始し、終了する事業）

- |               |             |
|---------------|-------------|
| (1)研究助成事業     | (2)高齢者福祉事業  |
| (3)障害者福祉事業    | (4)児童福祉事業   |
| (5)環境・文化財保全事業 | (6)地域つながり事業 |
| (7)冠婚葬祭継承事業   |             |

#### ●助成金額

総額およそ1,000万円を目途とする。（1件当たりの助成額上限は200万円。但し、研究助成事業においては、100万円を上限とする。）

#### ●助成対象となる経費

申請する団体等の常勤スタッフの人件費といった経常的経費は対象外。事業実施に直接必要な経費のみが対象。（例：謝金・賃金、旅費・滞在費、医療・物品・資材の購入費、建築物の工事費、通信・運搬費、事務用品等）

#### ●募集締切 平成31年2月末日（必着）

#### ●申請方法

所定の提出書類を期限までに（一財）冠婚葬祭文化振興財団 社会貢献基金助成 運営事務局宛に郵送。

※申請様式は冠婚葬祭文化振興財団ホームページ（下記URL）内の社会貢献基金助成のページよりダウンロード。

URL <http://www.ceremony-culture.jp/>

【書類送付先及び助成金に関する問い合わせ】

一般財団法人 冠婚葬祭文化振興財団  
社会貢献基金助成 運営事務局  
〒105-0003  
東京都港区西新橋1-18-12 COMS 虎ノ門6階  
TEL：03-3596-0061

## 紹介団体からの一言マメ知識！

—— 方言には、古語に由来する言葉が多くありますがその中からいくつかご紹介します。 ——

○つらつぎ（き）＝源氏物語（平安中期）→顔つき、顔色

「つらつき、まみなどは、いとよう似たりしゆゑ」・・・横顔や目などはとてもよく似ていたのだ

○なり＝落窪物語（平安中期）→形・格好・姿

「なりのいとあしくて」・・・身なりが大変ひどくて

○のころ＝徒然草（鎌倉後期）→ぬぐう、拭き取る

「感涙をのころはれけるとぞ」・・・感激の涙をお拭き取りになったなど。他にもこのような方言は多数あります。昔の日本を顧みるためにも、方言を大切にすることが必要ですね。

